岩手医科大学ドクターヘリ基地ヘリポート・格納庫建設工事起工式
（平成23年12月1日・画像情報センター提供）関連記事20頁

圭陵會々報

発行所
岩手医科大学圭陵会
〒020-8505盛岡市内丸19の1
Tel 019(651)5111番
Fax 019(624)8380番
URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字　三田定則　先生書
発行人　石川　育成
編集人　酒井　明夫
印刷所　山口北州印刷

1　月　号

目　次

新年のご挨拶
圭陵会長　石川育成……1
学　長　小川　彰……2
定年退職される教授……3
岩手医科大学入試概要……6
医療専門学校入試概要……8
薬学部同窓会設立に向けての検討……10
圭陵会本部だより……12
医学部同窓会だより……16
新年のご挨拶　会長　村井和夫
歯学部同窓会だより……17
新年のご挨拶　会長　城　茂治
トピックス……18
ドクターヘリ基地矢巾に起工……20
お祝い・ご逝去・編集後記……26

新年のご挨拶

圭陵会会長　石川育成

年頭にあたり、会員皆様のご健康とご多幸を心から祈念致します。

昨年の三月十一日の東日本大震災は、まさに未曽有の大災害であり、東北の沿岸部を中心に大きな爪痕を残しました。発災直後の惨憺たる状況の中で、全国の圭陵会支部及び会員の皆様から、お見舞いや激励など多くの勇気を頂きました。厚く御礼を申し上げます。

幸いにも大学は内陸に位置しており、建物にも甚大な被害はなく、職員、学生への直接の被災はございませんでした。しかしながら、会員の多くが被災した地域に居住しておることから、逝去された会員が九名、行方不明の方が一名、その他診療所・自宅が損壊された方、福島の原発事故により被災した方を含めると被害を受けた会員は六百名以上に及んでおります。多くの被災された会員並びにご家族の皆様に対して、衷心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を心からお祈りしております。

なお、全国の会員から多大の義援金を頂戴致しましたが、全て被災された会員への支援に活用させて頂いております。

また、震災発生以来、岩手医科大学は岩手県、岩手県医師会、岩手県歯科医師会と連携して、一丸となって被災地の医療支援に尽力して参りました。派遣ＪＭＡＴがほぼ撤収した八月からは、ＪＭＡＴ岩手と協力しながら、地元ならではの支援を続けて、被災地の医療の建て直しに全力で取り組んでいるところであります。

一方で、母校岩手医科大学は、矢巾キャンパスへの移転が着々と進み、二十三年一月二十七日には附属病院の起工式、同三月八日には医学部・歯学部の講義棟、実習棟、研究棟、学友会館の完成落成式、同十二月一日にはドクターヘリ基地・格納庫の起工式と進捗しております。

この度の大災害を乗り越えて、母校岩手医大が更に発展、充実していくためには、全ての大学関係者、全ての圭陵会員のご協力が必要であります。会員の皆様の絶大なご理解とご支援をお願い申し上げまして、新年のご挨拶と致します

会員逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成二三年一一月四日
専一　石井　智海　殿
静岡県浜松市浜北区小松四四九八―五
平成二三年一一月一日
専一五　白岩　敏夫　殿
福島県田村市常葉町常葉字内町四八
平成二三年八月三日
専一六　境田　豊　殿
神奈川県小田原市前川四七四―一―五〇七
平成二三年一〇月二三日
専一六　坂本　勝雄　殿
北海道帯広市白樺一六条東一九―一八―三
平成二〇年一二月一〇日
専一六　瀧野　敏弥　殿
北海道函館市駒場町六―三三
平成二三年三月一八日
専一八　町田　利晴　殿
北海道函館市本町一二―一六
平成二一年一〇月一八日
専一九　伊藤　弘之　殿
北海道函館市湯川町二―七―七
平成二三年一一月一四日
専一九　木村　正　殿
秋田県湯沢市西愛宕町四―一八
平成二三年一〇月一四日
医二　中村　昭一　殿
静岡県焼津市吉永五〇五―一
平成二三年一〇月六日
医八　平田　輝夫　殿
北海道函館市松陰町二七―四一
平成二三年一一月七日
医九　渋谷　邦彦　殿
富山県射水市殿村一三七
平成二三年三月一一日
医一〇　小野寺　勲　殿
岩手県岩手郡滝沢村滝沢字室小路一八九―二
平成二三年一〇月一四日
医一四　岡崎　寛　殿
福島県白河市字道場小路九一―八
平成二三年一〇月二九日
医一五　星野　干城　殿
愛知県岡崎市樫山町字新居野五六―五
平成二三年一一月二一日
医二七　安藤　幾朗　殿
青森県三沢市中央町三―一二―三六
平成二三年一一月八日
歯八　大島　敏　殿
埼玉県大里郡寄居町大字寄居六一四
平成二二年一一月三〇日
歯三〇　後藤　綾子　殿
青森県青森市篠田一―二五―八八―一〇一
平成二三年九月二〇日
他六三　永塚　道夫　殿
岩手県盛岡市緑が丘四―一―七
平成二三年一一月六日
他六七　工藤　啓吾　殿
岩手県盛岡市西松園三―二―五

〈お　祝　い〉

左記の方々は表彰を受けられました。お祝い申し上げます。

厚生労働大臣表彰
医六　白倉　義則　殿
旭日双光章
医八　白岩　道夫　殿
日本医師会最高優功賞
医二一　奥野　豊　殿
日本医師会優功賞
医二二　臼井　康雄　殿
中央労働災害防止協会緑十字賞
医二三　中居　重直　殿
臓器移植対策推進功労者厚生労働大臣感謝状
医二三　藤岡　知昭　殿
厚生労働大臣表彰
医二四　石田　薫　殿
瑞宝小綬章
他七六　伊藤　忠一　殿
瑞宝双光章
他七九　佐々木久夫　殿

〈大学人事〉

医学部
内科学講座循環器内科分野（教授）新任
一〇月一日付　森野　禎浩
内科学講座糖尿病・代謝内科分野（准教授）昇任
一〇月一日付　高橋　和眞
睡眠医療学科（講師）
臨床検査医学講座より所属異動
一〇月一日付　西島　嗣生
内科学講座循環器内科分野・循環器医療センター循環器内科（講師）
内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野より所属異動
一一月一日　房崎　哲也

編集後記

平成二十三年の世相を表す漢字一字は「絆」でありました。東日本大震災の爪痕は未だ深く、御不便な生活を強いられている皆様もおいでのことと拝察いたします。冒頭の石川会長のご挨拶にもありますように、圭陵会員の皆様からの絶大なご支援や、心温まる激励のお言葉を聞くにつけ、杜の都盛岡で育くまれた絆の深さを感じております。

震災からの復旧・復興には長い年月がかかります。沿岸地域での医療の復活はもとより、原発被害で苦しめられている福島の原状回復には、数十年単位での対応が必要と思われます。大学でも県や国と連携し、長期にわたる地域医療支援、災害医療対策、住民の健康・精神医療に係る調査など、複数の施策に参加すると聞き及んでおります。広報局といたしましても、大学の取り組みも含め、被災地からの情報をタイムリーに取り上げ、会員の皆様にお伝えできるように心掛けて参ります。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

（前沢千早、稲葉大輔、曽根美雪）

新年のご挨拶

岩手医科大学
学長　小川　彰

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、三月十一日の災害に始まり、災害対策に振り回された一年でした。特に、被災された圭陵会会員の皆様には心からお見舞い申し上げます。今年も東日本大震災津波大災害を乗り越え、昨年に引き続き復興に全力で取り組んでまいります。

さて、今回の大災害以前から準備されておりましたドクターヘリの格納庫ヘリポートが矢巾キャンパスC敷地に三月には完成し、四月から試験運用を経て本格運用が開始されます。岩手県の救急医療に大いに力となる事が予想されます。

また、災害医学講座、災害地域精神医学講座を寄付講座として開設し、同時に岩手県の委託を受け「こころのケアセンター」を本学に設置し、被災地において長期・継続的に行う必要のあるこころのケア対策の実施機関を整備します。災害医学講座関連では、文部科学省に発災直後からお願いしておりました「災害時地域医療支援教育センター」について、昨年末の三次補正に組み込まれ、施設設備費合わせて十一億円のご支援を頂けることになりました。昨年完成した矢巾キャンパスの総合移転整備計画第一次事業、第二次事業に加え、新たに「マルチメディア教育研究棟」を整備する事になりました。東講義実習棟とほぼ同じ建物規模で、来年度中には完成の予定です。平成三十年度から運用を開始すべく準備を進めている矢巾キャンパスのC敷地の「附属病院本院」「内丸メディカルセンター」と連動させ、教育研究環境は更に充実する事になります。

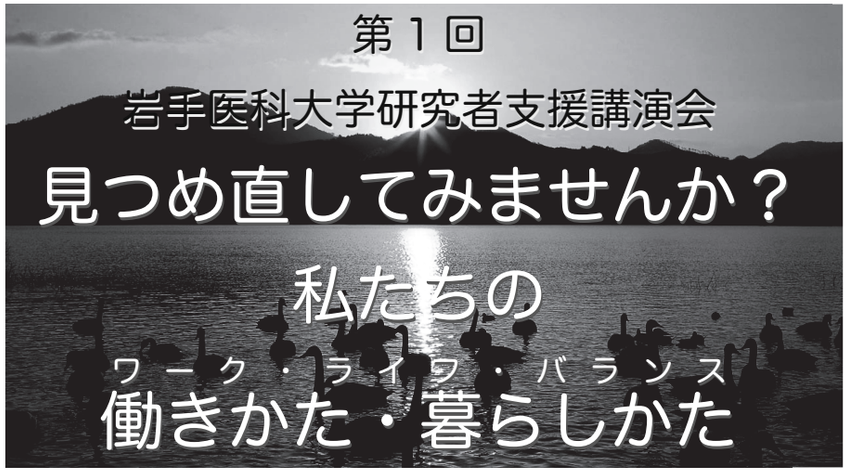
また、今年度末には薬学部一期生が卒業します。これに伴い大学院も整備されます。医学部、歯学部、薬学部三学部が同じキャンパスに学び、三学部が密に連携して教育、研究ができる環境を有する大学は他に類がありません。また、学部単位ではない統合基礎講座も導入しました。例えば学部毎に別個の講座だった医科解剖、歯科解剖講座などを統合し学部横断的に統合した講座に再編しました。全ての基礎講座を統合したのです。この様に学部を超えた密な連携や統合基礎講座は日本で初めてです。日本の将来の新しい大学のモデルともなり得る試みであり、壮大な社会実験と言って良いでしょう。全国からも注目されています。ハード面での整備拡充はもとより、大学運用のソフト面でもこの様な新しいコンセプトを次々と導入し、地方にありながら日本を、また、世界をリードする大学として生まれ変わるべく教職員一同努力を続けて参ります。

圭陵会の皆様にはご理解を賜り、なお一層のご支援をお願い申し上げ新年のご挨拶と致します。

第１回岩手医科大学研究者支援講演会のご案内

岩手医科大学
研究者支援室設置準備委員会
委員長　増　田　友　之

本学では岩手医科大学に在籍する研究者の「働きかた、暮らしかた」を考え、より良い環境を実現する機会とするため、ワーク・ライフ・バランスに関する講演会を開催することといたしましたので、ご案内いたします。



講師：渥美（あつみ）　由喜（なおき）　先生　内閣府　男女共同参画会議専門委員
粂（くめ）　昭苑（しょうえん）　先生　熊本大学　発生医学研究所教授
男女共同参画学長補佐

日時：平成 24 年 2 月 16 日（木）　16 時〜17 時 45 分

会場：岩手医科大学　矢巾キャンパス　本部棟 4 階大会議室

中継会場　内丸キャンパス　創立 60 周年記念館 9 階第 2 講義室

Ustream　配信も行います（視聴方法は下記ホームページ URL をご覧下さい）

本学における男女共同参画の推進を目指した、学部横断型の研究者支援室設置準備委員会が発足しました。昨年度は学内男女共同参画アンケートを実施し、本学でも少しずつですが研究者支援の動きが始まっています。本年度は、初めての講演会を企画しました。

あなたの「働きかた、暮らしかた」を見つめ直してみませんか？そしてより良い「働きかた、暮らしかた」を実現するために、個人ができること、職場ができることを一緒に考えてみませんか？育児や介護など暮らしの問題、キャリア形成など働きかたの問題に、今まさに取り組まれている方も将来気になる方も、奮ってご聴講下さい。講演終了後の情報交換会（17：45〜18：30 矢巾キャンパスのみ）にも是非お気軽にご参加下さい。

主催：岩手医科大学研究者支援室設置準備委員会
後援：岩手県医師会、岩手医科大学医師会、岩手医科大学医学部教務委員会・歯学部教務委員会・薬学部教務委員会、岩手医科大学圭陵会・尚絅会
お問い合わせ：岩手医科大学研究助成課　吉田　TEL: 019-651-5111(代)　内線 3268
ホームページ　http://w3j.iwate-med.ac.jp/kenkyu/support/Welcome.html

薬学部同窓会設立に向けての検討について（報告）

圭陵会今後のあり方検討委員会では、圭陵会会長より諮問のあった「平成25年3月に初の薬学部の卒業生を輩出することから、その卒業生を迎え入れるための体制」、また「将来の薬学部同窓会の設立のための援助」について、検討を加えております。

その検討内容については、圭陵会・医学部同窓会・歯学部同窓会及び父兄会の役員会に対し報告・提案を行い、基本的な了承を得ているところでありますが、今回会報において会員また薬学部を含めました学生のご父兄の皆様にその検討内容をご紹介させていただきます。

なお、ご質問・ご意見等がございましたなら、圭陵会事務局までお願い致します。

圭陵会今後のあり方検討委員会 委員長（圭陵会幹事長）増田　友之

薬学部同窓会設立に向けての検討（案）

1．現　況

薬学部学生（平成23年4月1日現在）　796名

5学年142名、4学年152名、3学年164名、2学年171名、1学年167名

2．薬学部同窓会設立に向けてのタイムスケジュール

（平成19年4月 薬学部開設。）

（平成22年6月 圭陵会役員改選に伴い、薬学部教員の圭陵会役員就任。）

平成24年度　薬学部学生、最終学年の6学年となる。
圭陵会薬学部（準会員）支援事業として、国試対策援助金の支給開始。

平成25年3月　薬学部第1期卒業生輩出。

平成25年度　圭陵会事業局の中に圭陵会薬学部事業の検討・執行等のための圭陵会薬学部事業局を新設。
圭陵会薬学部（準会員・正会員）支援事業として、学術研修事業及び渉外活動等の開始。

平成25年6月　圭陵会役員改選に合わせ、薬学部教員及び薬学部卒業生を圭陵会役員（副会長・幹事等）に加える。

平成35年度　薬学部同窓会の設立。
薬学部同窓会費の徴収。

3．圭陵会薬学部（準会員・正会員）支援事業

圭陵会薬学部支援事業として、薬学部学生（圭陵会準会員）及び薬学部卒業生（圭陵会正会員）を対象とした次の事業を行う。

（1）国試（薬剤師国家試験）対策援助

6学年への国試対策援助金として平成24年度以降毎年度150万円を支給する。

（2）学術研修

主に卒業生を対象とした学術研修（講演等）を実施する。

その経費を平成25年度以降毎年度予算計上する。

（3）渉外活動の支援等

他大学等との交流費用等を平成25年度以降毎年度予算計上する。

なお、平成35年度（卒業生を輩出後10年目）には薬学部同窓会が設立（予定）され、独自の同窓会活動が開始されることから総会等の会議費を予算計上する。

4．圭陵会薬学部支援事業等に係る財源等

圭陵会薬学部支援事業等の経費及び薬学部圭陵会負担金の財源は、薬学部同窓会年会費を徴収するまでは、薬学部学生からの圭陵会費（一時金）、また圭陵会薬学部で独自に集めた収入とする。

（1）薬学部学生圭陵会費（一時金）

薬学部学生（準会員）からの圭陵会費（一時金）は2年次以降6年次まで毎年1万円、総額5万円。

（参考）医・歯学部学生は入学時に15万円の一括納入。

（2）薬学部圭陵会負担金

平成25年4月に薬学部正会員が出ることから、平成25年度より圭陵会の事業に係る圭陵会負担金が生じる。なお、同薬学部圭陵会負担金は、現行の圭陵会負担金の算出方法（平成22年度改正）による。

（算出方法）圭陵会一般会計の全支出から収入を引いた分の全額を医学部同窓会・歯学部同窓会及び薬学部正会員（卒業生）の会員総数（生存者数）の割合で負担する。

5．圭陵会の体制

薬学部同窓会設立までは、圭陵会の体制は現行のままとし、圭陵会事業局の中に圭陵会薬学部事業の検討・執行等のための圭陵会薬学部事業局を新設する。

6．圭陵会薬学部支援事業の開始に伴う会計処理

平成24年度からの圭陵会薬学部支援事業の開始に伴い、現在圭陵会会計の中で処理されている圭陵会薬学部準会員（平成25年度以降は薬学部正会員を含む）の会費等の会計処理は、圭陵会会計より独立した圭陵会薬学部会計に移行し、処理を行う。

なお、会計処理の方法については現行の圭陵会及び医・歯学部同窓会に準じて行う。

7．圭陵会薬学部の収支予想

3及び4の圭陵会薬学部支援事業・圭陵会負担金等による圭陵会薬学部の収支予想について考察を行った結果、平成34年度までは事業に係る経費は薬学部学生からの一時金で十分であるが、平成35年度以降同窓会が設立され独自の活動が開始されると総会等の会議費も支出されることから、単年度の一時金で経費を賄うことが困難となる。従って、平成35年度に薬学部同窓会を設立（予定）したことを機に、薬学部同窓会としての独自の年会費3,000円（案）（参考；医学部年会費3,000円、歯学部年会費5,000円）を平成35年度より徴収することを含めた同窓会の発足とする。（下記予想図）

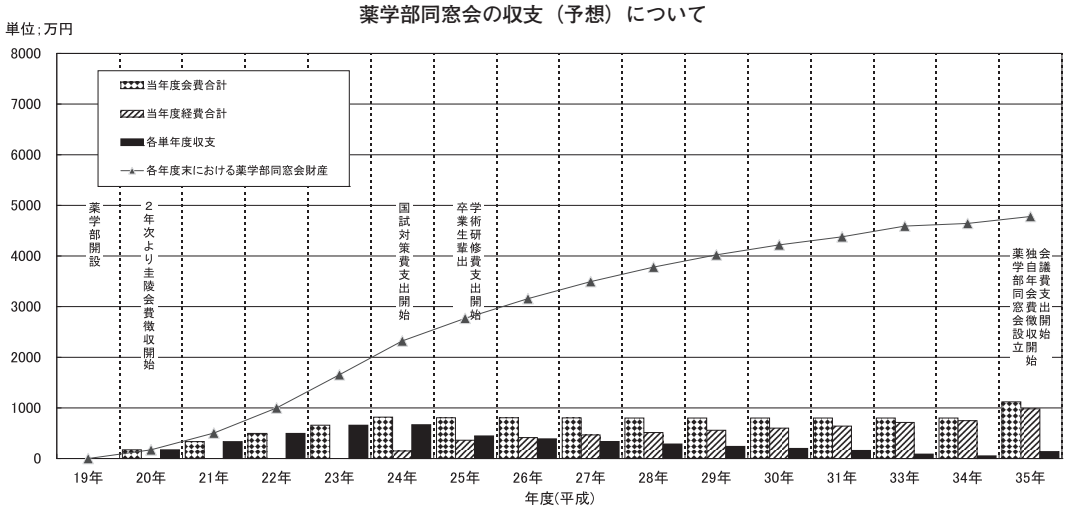
これにより、安定した薬学部同窓会の運営が行われることが予想される。

（参考）同窓会の独自の活動に係る経費（圭陵会負担金を除く）

医学部同窓会；平成22年度444万円。

圭陵会薬学部；平成25年度～34年度まで、各年度300万円（予定）。

薬学部同窓会の収支（予想）について



単位；万円

	年度(平成)	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年
収入	圭陵会費	0	171	333	495	657	817	806	804	802	800	800	800	800	800	800	800	800
	薬学部年会費	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	319,8
	計	0,0	171,0	333,0	495,0	657,0	817,0	806,0	804,0	802,0	800,0	800,0	800,0	800,0	800,0	800,0	800,0	1119,8
支出	圭陵会負担金	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	60,3	114,5	165,7	213,9	259,1	301,1	340,7	376,5	412,6	448,7	481,8
	国試対策費 学術研修費	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	150,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0	200,0
	渉外活動費会議費	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	100,0	300,0
	計	0,0	0,0	0,0	0,0	0,0	150,0	360,3	414,5	465,7	513,9	559,1	601,1	640,7	676,5	712,6	748,7	981,8
各単年度収支		0,0	171,0	333,0	495,0	657,0	667,0	445,7	389,5	336,3	286,1	240,3	198,9	159,3	123,5	87,4	51,3	138,0
各年度末における薬学部同窓会財産		0,0	171,0	504,0	999,0	1656,0	2323,0	2768,0	3158,2	3494,5	3780,6	4021,5	4220,4	4379,7	4503,2	4590,6	4641,9	4779,9